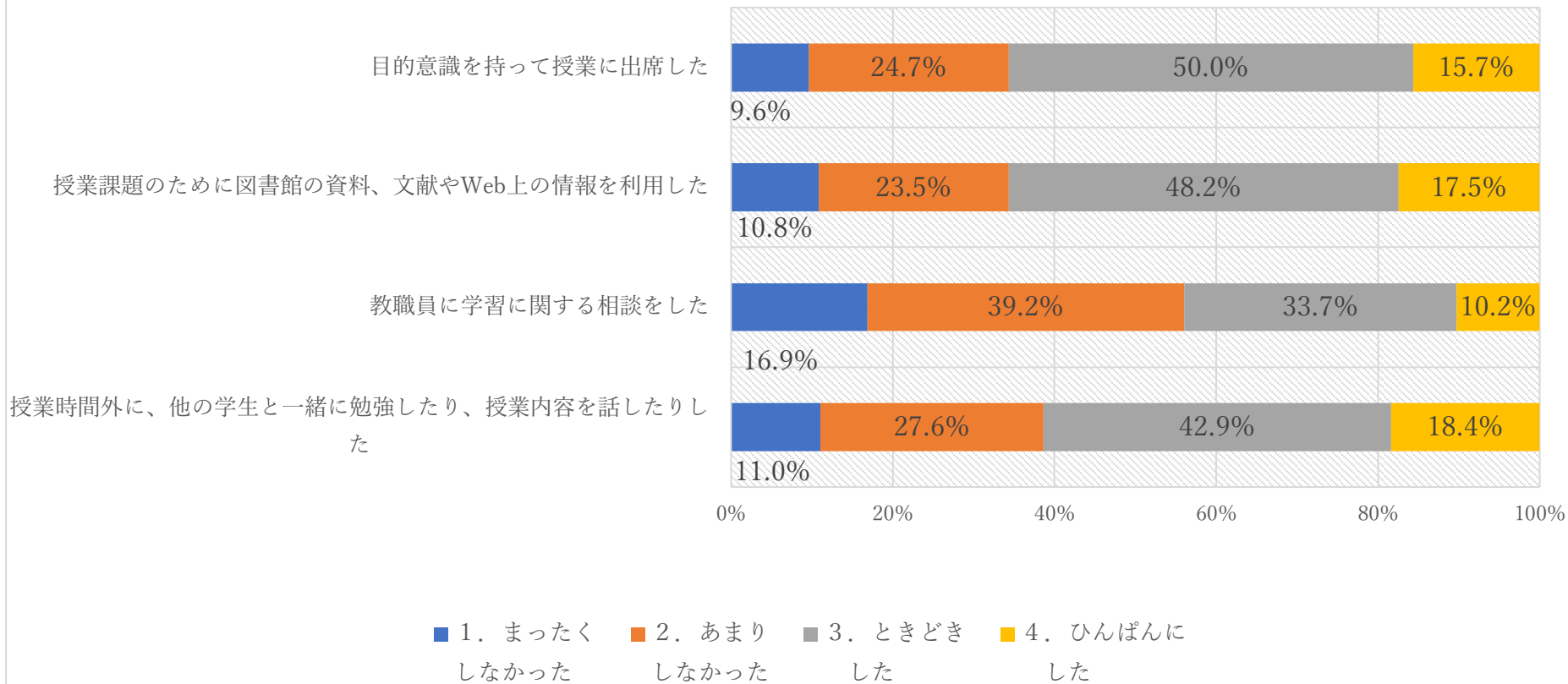
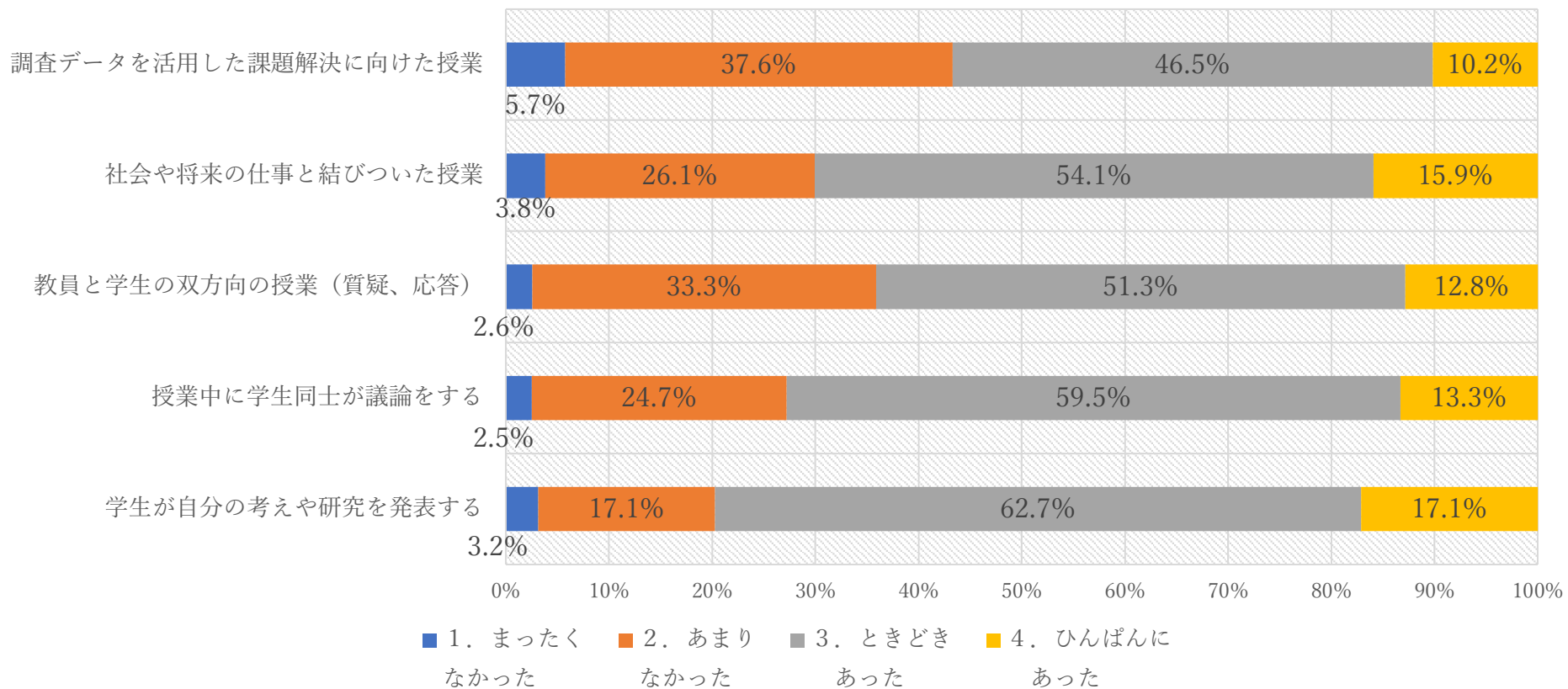


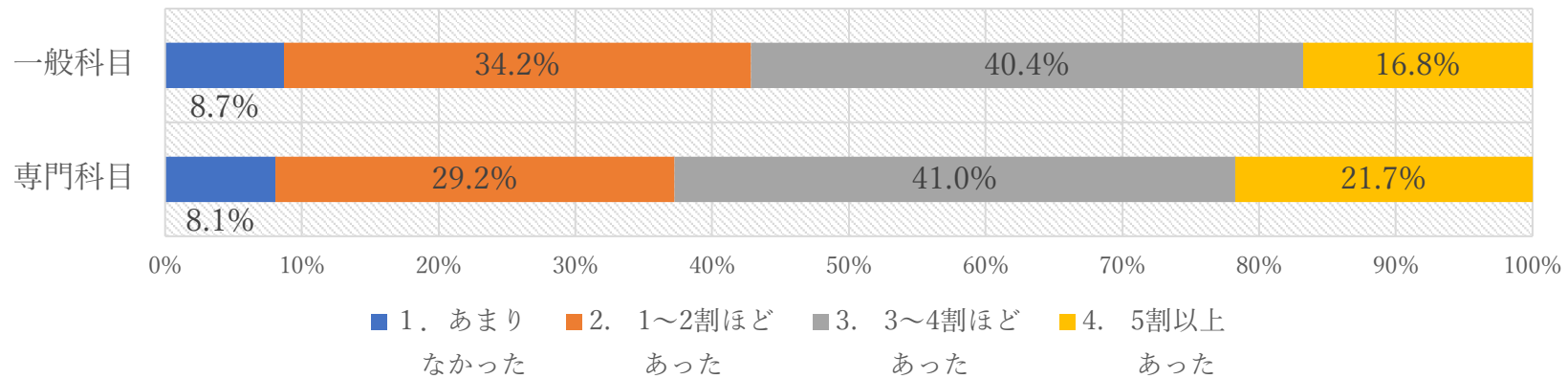
学習行動



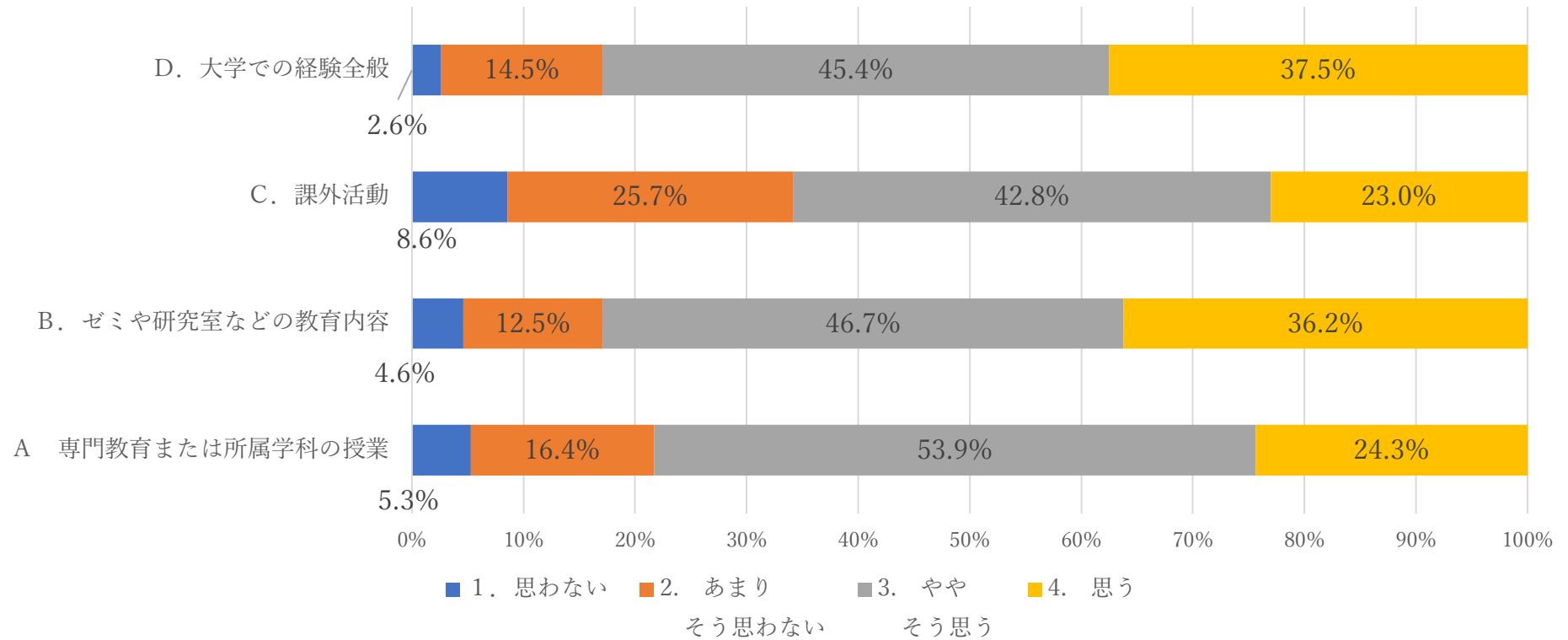
学習機会



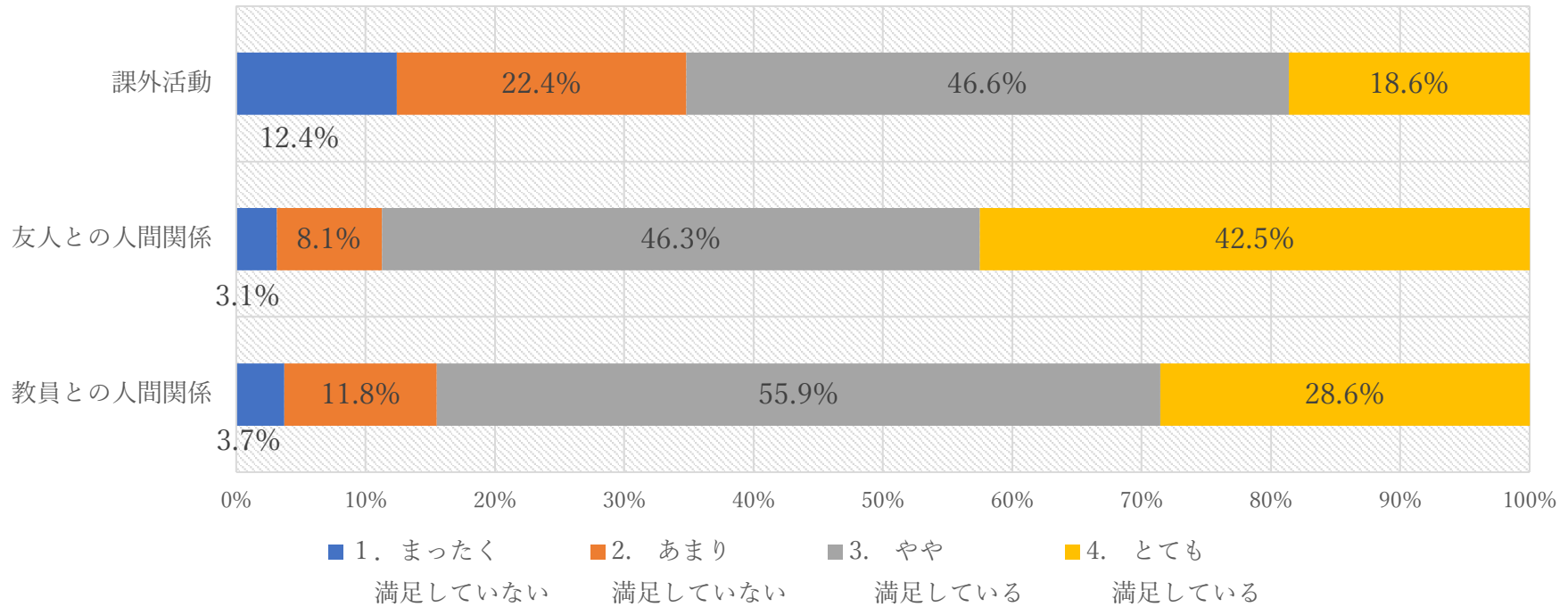
学びの興味・関心



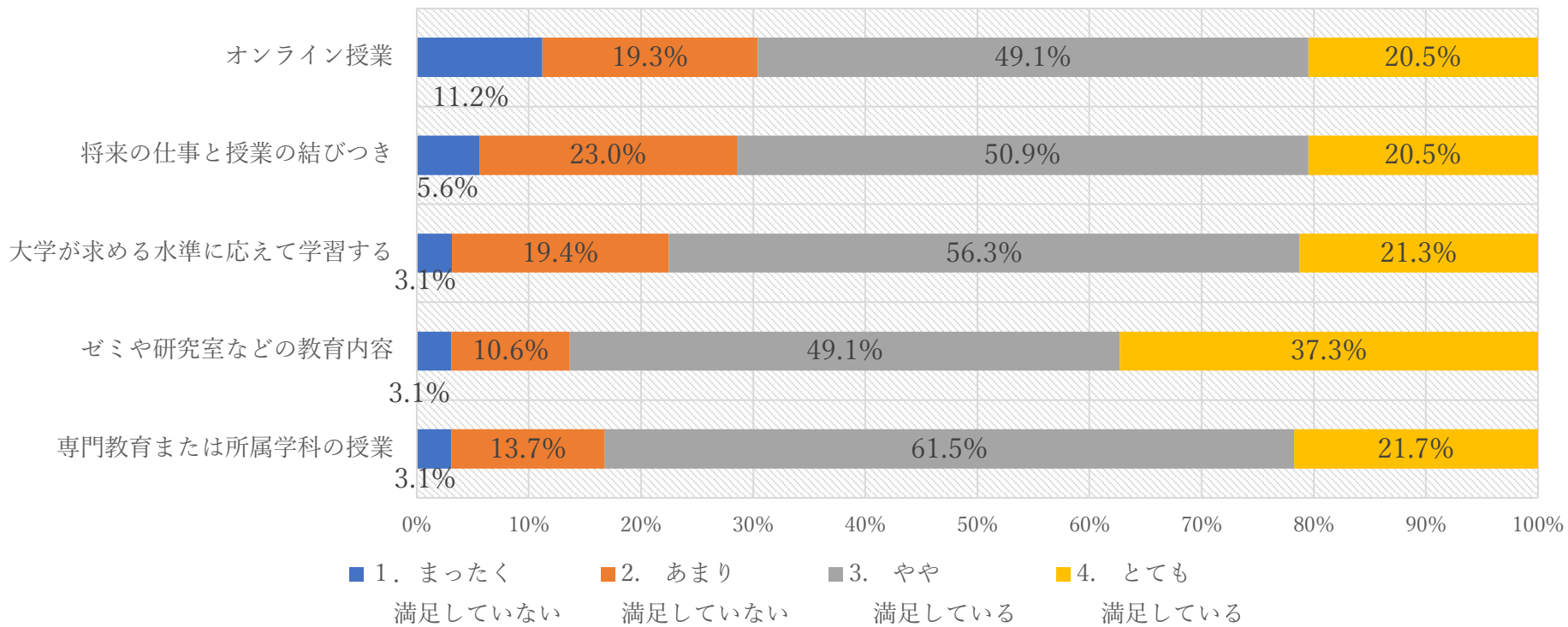
成長実感



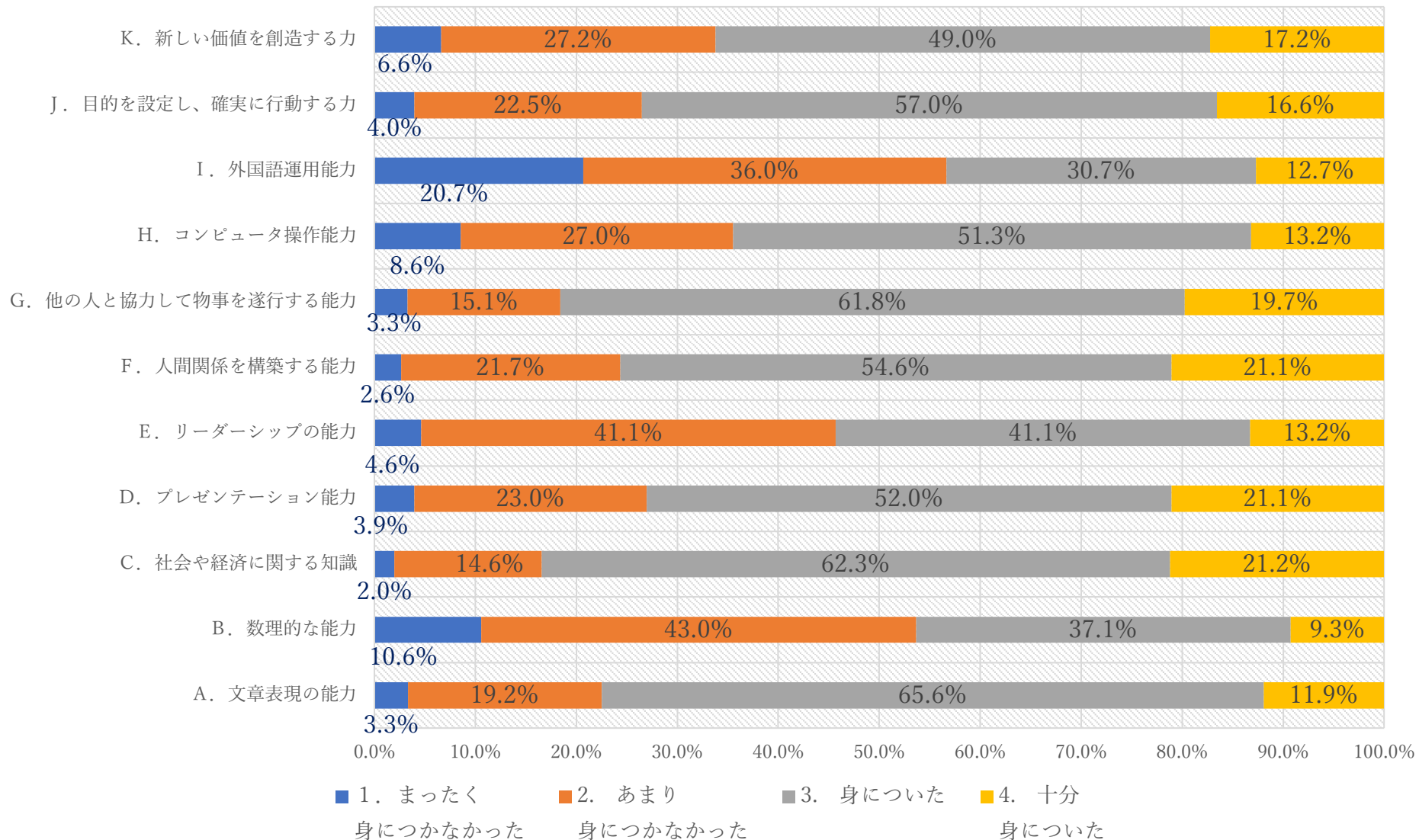
人間関係 課外活動 満足度



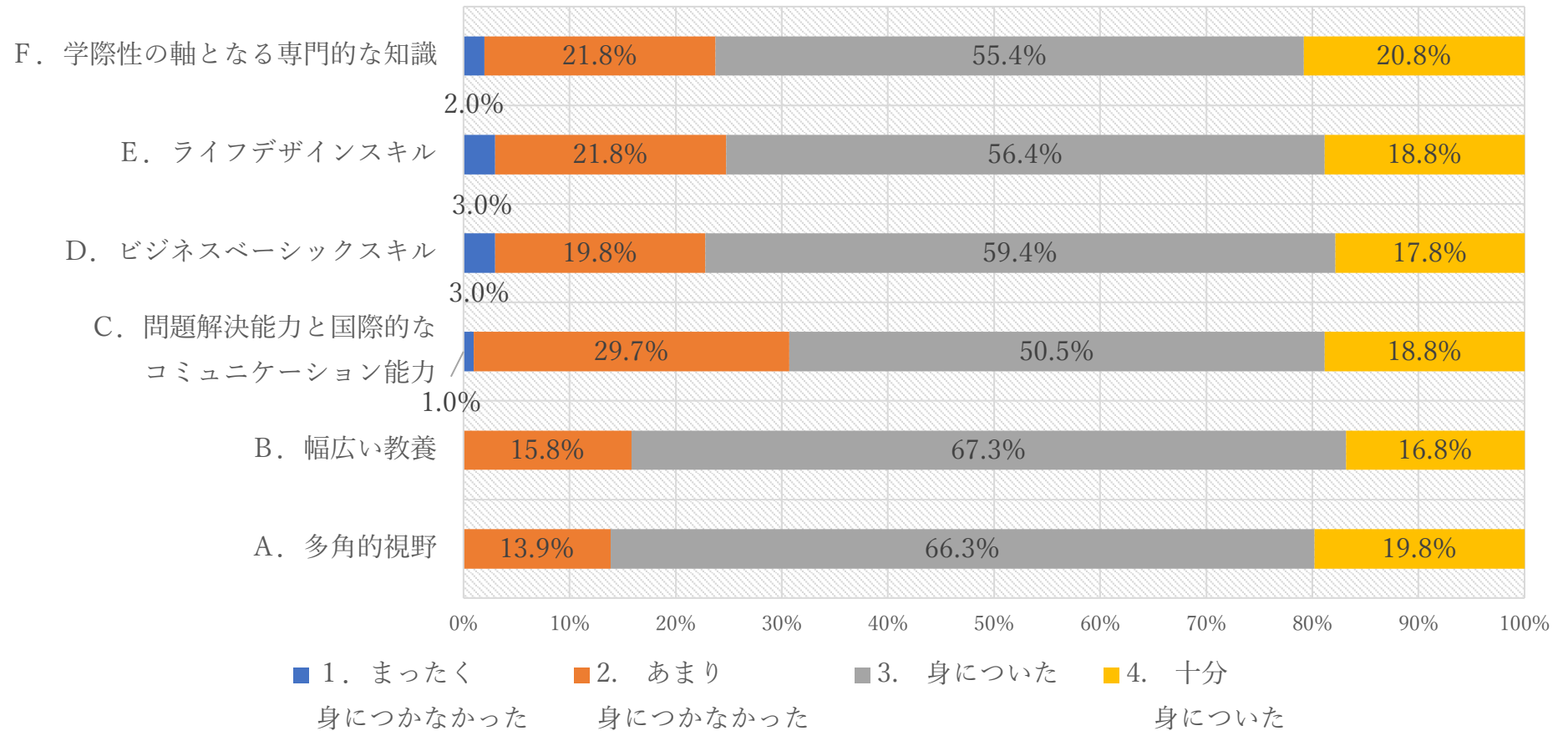
教育内容 満足度



卒業時の知識・能力



ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果



総 評：総合政策学部

アンケート結果からは、本アンケートに回答した卒業生諸君は、学びや学生生活において、やや不完全燃焼のまま卒業していった様子を読み取れる。その背景には、コロナウイルス感染症の感染拡大があり、3年時より講義の大半がオンラインとなったことで、理想とした学生生活からかけ離れてしまったことが大きな要因として認められよう。

学習行動として「教職員に学習に関する相談をした」学生が43.9%（前年度【以下（）内同じ】61.1%）であったほか、課外活動での成長を感じた学生が55.8%（60.3%）に下がるなど、コロナ禍に翻弄された学生たちの姿が見て取れる。

そのいっぽうで「教員と学生の双方向の授業」は64.1%（59.5%）が肯定的に捉えているほか、「ゼミや研究室などの教育内容」で86.4%（68.3%）、「教員との人間関係」では84.5%（79.3%）の学生が満足している。かかる結果は、コロナ禍において、ゼミが対面形式で実施されたことはもとより、各教員が個別に講義方法を検討し工夫したアウトカムであると自負している。

ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果については、「多角的視野」86.1%（71.4%）、「幅広い教養」84.1%（72.2%）、「問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力」69.3%（67.7%）、「ビジネスベーシックスキル」77.8%（65.9%）、「ライフデザインスキル」75.2%（63.5%）「学際性の軸となる専門的な知識」は75.7%（63.5%）となっており、すべての項目で前年を上回っている。卒業時の知識・能力では、「外国語運用能力」が43.4%（43.6%）、「数理的な能力」46.4%（45.2%）とやや数値が低いものの、「文章表現の能力」77.5%（69.0%）、「コンピュータ操作能力」は64.5%（54.7%）など大幅にポイントが伸びた項目もあり、引き続き、総合的なビジネスリテラシーの習得を目指すべく授業改善に努めていきたい。

例年実施している、学部長と学生の懇談会において、学修や大学生活についての意見交換が行われている。継続的に学生との意見交換を進めつつ、教員もまたFDで研鑽しながら、より良い講義が提供できる努力を行っていきたい。